



住宅街にぽつんと残る古墳「朝町山ノ口遺跡（宗像市青葉台2丁目-24-6）」。発掘調査では23基の古墳が発掘調査された。



Theme 古墳探訪

世界遺産登録された新原・奴山古墳群には、宗像君一族が5～6世紀にかけて海沿いに古墳群を築いた。現存しているのはその数41基。沖ノ島への信仰やこの場所での暮らしが垣間見える。加えて、内陸側にも多くの遺跡が現存しており、弥生時代や古墳時代からこの宗像の地が栄えていたことを物語っている。



An aerial photograph of a grassy field. A series of rectangular concrete slabs are laid out in a diagonal line across the field. Small, light-colored spherical markers are placed on the grass between the slabs. In the background, there is a dark, rectangular structure, possibly a bunker or a building, with some text on its side. The field is surrounded by a low wall or fence.

**残せた古墳、
残せなかった古墳**

私達がいま目している森林ももしかしたら、弥生時代や古墳時代には集落があり、墓をつくり、私達の先祖がそこに住んでいたかもしれない。長い年月をかけて様々な物語があり、地域で残せた古墳、残せなかった古墳がある。宗像の古墳に訪れ、そんなことに想いを馳せて欲しい。

発掘された。弥生時代前期の
終わり頃から造られ始め、古
墳時代後期のものまで確認さ
れている。以前の墓を部分的
に壊して新しく墓を造るなど、
何百年とこの地域に人が
暮らし、栄えていたのでは、
と想像できる。その後、新た
な土地に移っていったのか、
他の有力者に敗れ衰退したの
か、どちらにしてもその後、
人々から忘れ去られ、原野と

タイムカプセルのようだ。
忘れ去られた
暮らしが発掘で蘇る

住宅地区に入っていくと、
一部が公園になっている「朝
町竹重遺跡」がある。この場
所で150基以上の土坑墓が

も珍しく横穴式石室に実際に入る事が出来る。ずっと近隣の人々から守られてきたのか、状態良く残存している。

古墳は墓。自分が「生きた証」を後世に残すために人は墓をつくる。多くの古墳は残せないまま潰されたり、長い時間をかけ自然に飲み込まれ人々の記憶から消えていく。不動産開発などの地盤整備で古墳が発見され、様々な出土品から当時の人々がこの地でどのように暮らし、他地域や海外との交流をしていたかわかる。忘れ去られていた時間が時代を越えて、再び私達の前に現れる。古墳は壮大なタイムカプセルのようだ。

令和4年（2022）、沖ノ島と関連遺産群が世界登録されて5年が経った。世界遺産によつて市外の観光客も増加。多くは世界遺産を求め海側に目が向いているが、同じ時代、海の民との交流が内陸にもあった。それは発掘された多くの古墳や出土品から当時の様子がわかる。福津には世界遺産の新原・奴山古墳群があるが、広範囲の宗像郡で見ると、実は宗像市内の至るところにも古墳群が多く点在している。宗像は早くから前方後円墳が築造され、その数も多く、大和政権との繋がりが伺える。今回は宗像東部側の古墳を「海の道むなかた館」にも協力いただき紹介する。

実際に入れる古墳

まず向かったのは「名残伊豆丸遺跡」。こちらは宗像で

海だけではない、
内陸も栄えていた宗像